部落差別の起源学びました！ 第２回社会同和教育講座

厳しい寒さが緩み、比較的暖かな日差しのある１月２９日（日）天白第２集会所にて、本年度２回目の社会同和教育講座が、三重県人権センターの味岡一博さんをお迎えし、『謂れなき差別（部落差別）は、どのようにしてつくられたのか？』というテーマでご講演をいただきました。天候にも恵まれ前回より多くの皆さんに参加していただき、部落差別はどのようにして起こり、なぜ差別が行われるようになっていったのか、語源の説明を織り交ぜながらわかりやすくお話しいただき、参加された皆さん一人ひとりに大変有意義な時間になったものと思います。

一昔前の部落差別の学習では、身分制度により差別化され一番身分の低い人々への差別事象が、頻繁に繰り返されるようになった、というように学んだ方も多かったように推察されますが、今回は諸説をひも解いて、近年分かってきた内容をわかりやすくお話しいただいたものでした。平安から鎌倉初期にかけた時代、ほとんどの住民が農民として生活していたころ、様々な天災等によりすべてを失いながらも、運よく生き残ることができた人々が、生きていくために栄えている都を目指し移住しました。しかし、都の住民はそのような部外者を、都の外へ追いやり周辺に住まわせ、都で起きた住民の嫌がるケガレた事象の処理をする仕事に従事させたそうです。当初都に住む住民は、ケガレを処理してもらうことに感謝しありがたく感じていたようですが、時を経るにつれケガレを処理する人々は、ケガレているというように決めつけ、差別するようになっていった経緯が説明されました。